

雨に強いまちづくり

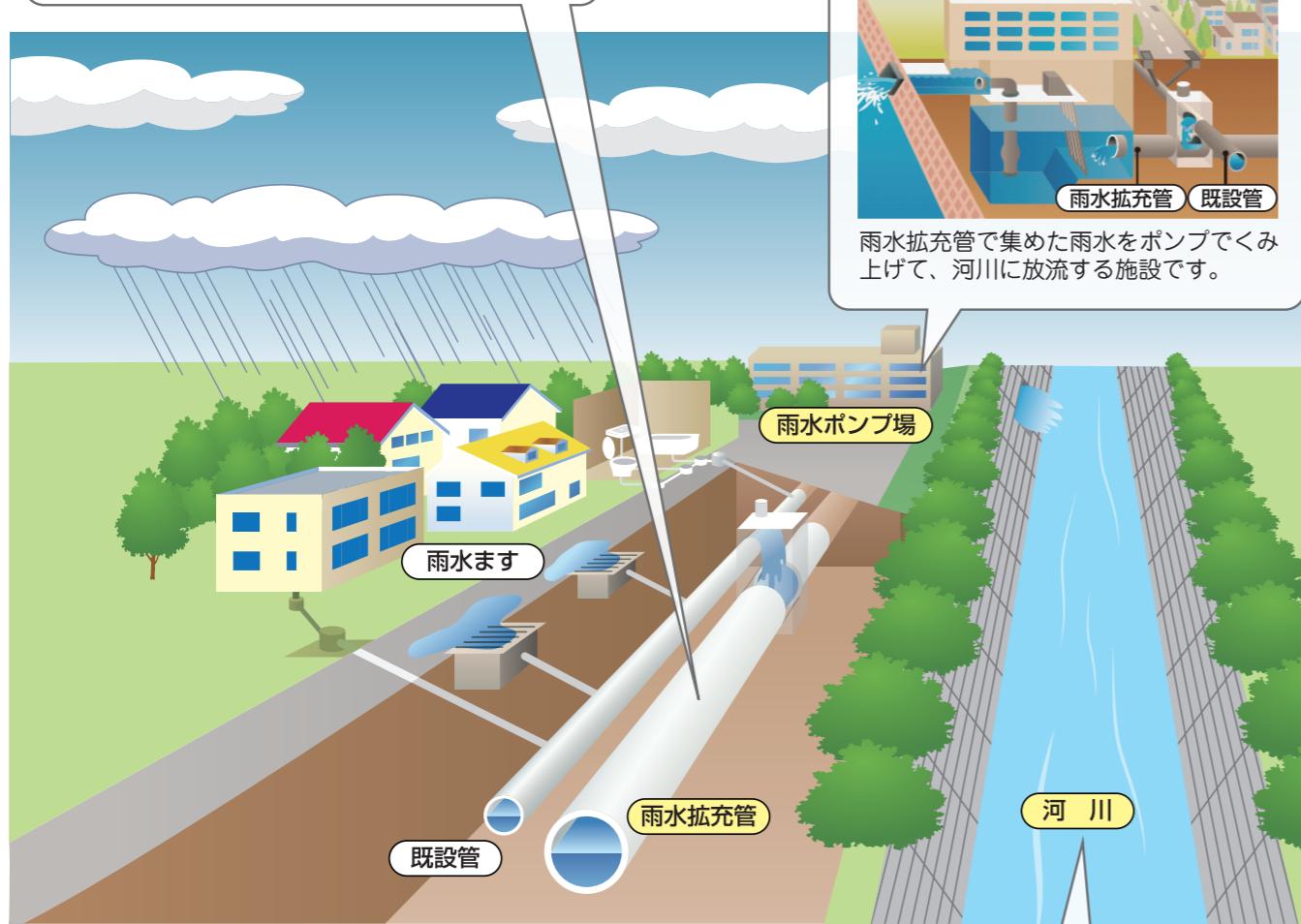
雨水を速やかに

流す

大雨が降っても、雨水を速やかに流すことができれば、浸水被害を軽減できます。そのため、札幌市では計画的に下水道施設の拡充や河川改修を進めています。

雨水拡充管

大雨が降ったときに既設の下水道管（既設管）の排水能力を超えた雨水を流すための管です。



河川改修

川幅を広げたり、川底を掘削したりすることにより、河川のはん濫を防ぎます。



改修後 流下能力*が向上

*どれくらいの水を流すことができるかを表したもの



札幌市では雨に強いまちづくりを進めるため、「流す」と「貯める」の2つの側面から雨水対策に取り組んでいます。

雨水を一時的に

貯める

下水道や河川により雨水を速やかに流すだけではなく、一時的に貯めることにより、下水道や河川への雨水の流出量を減らすことで雨に強いまちづくりを進めています。

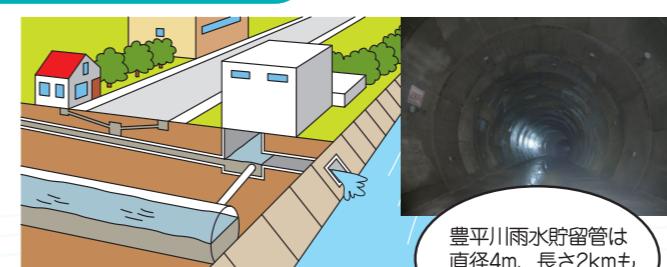
雨水貯留池



宅地開発時に、雨水貯留池（一時的に雨を貯める施設）を整備するよう義務付けています。

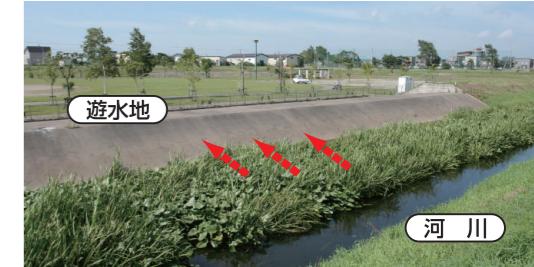


雨水貯留管



豊平川雨水貯留管は直径4m、長さ2kmもあります。
大雨時に雨水を一時的に貯める管です。貯留した雨水は雨が止んだ後に水再生プラザへ送水し、処理してから河川に放流します。

遊水地



大雨により河川の水位が上昇したときに、河川の水を一時的に貯める施設です。普段はグラウンドなどに利用されています。

貯留浸透施設



公園や学校のグラウンドを部分的に掘り下げ、敷地内に降った雨を一時的に貯めて、一度に河川に流れ込まないようにする施設です。